

# 日本英語教育史学会 第282回 研究例会

日 時： 2021年3月20日（土）14:00～17:00

オンライン開催：詳細は学会ホームページをご参照ください（<http://hiset.jp/>）。

内容

研究発表「ローマ字表記争論をめぐって ～過去、現在、未来～」

米岡 ジュリ氏（熊本学園大学 教授）

**【概要】** 日本語のローマ字表記には、「外国人が作った外国人のため」のヘボン式と「日本人が作った日本人のため」の訓令式がある。公式には訓令式が定められている一方、実際社会はほとんど改定ヘボン式ローマ字を利用している。しかし、現代社会はローマ字のニーズが大きく変わり、21世紀の子供の多くは、訓令でもヘボンでもなく、いわゆる「ワープロ・ローマ字」を使用する。本研究は、明治初期から引き摺っている「二重人格 ローマ字」のルーツと歴史を探った後、新時代にふさわしい「ワープロ・ローマ字」に基づく統一された、合理性のある新形ローマ字を提案する。

1. Round 1 1860-1892 争論のルーツ
2. Round 2 1902-1909 標準式の誕生
3. Round 3 1921-1937 訓令式への道
4. Round 4 1945-1954 SCAP とヘボン式
5. Round 5 1954-現在「二重人格」ローマ字時代
6. 21世紀のため：新形ローマ字の提案

研究発表「広島文理科大学『英語教育』（1936～1947）における英語教育論」

上野 舞斗氏（四天王寺大学助教）・江利川 春雄氏（和歌山大学教授）

**【概要】** 広島文理科大学英語英文学研究室／英語教育研究所編『英語教育』（1936～1947年、全40冊）は、「英語教育」を冠した初の専門誌であり、研究論文、中等学校での実践報告、英語教育時評など、貴重な資料の宝庫である。この「忘れられた英語教育雑誌」の学術的価値と今日的意義を明らかにしたい。

発表では、英語教育の論考に絞り、主要な執筆者、論考のテーマ、特徴的な内容について報告する。そのために総目次を作成し、執筆者や内容ごとに分類し、全体像を量的・質的に把握する。それを踏まえて、掲載頻度の高いテーマおよび英語教育史に関連する論考に焦点を当て、特徴を考察する。

参加費： 無料

問合せ 日本英語教育史学会例会担当

reikai(at)hiset.jp (at) を @ に変えてください。